

31年2月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成31年 2月1日～ 31年2月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
2月分の回答企業数は5社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)−(「減少」の評価を行った回答の割合)×2−(「やや減少」の評価を行った回答の割合)]÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		31/2月	3月	4月
入荷動向	国産材	△ 12.5	△ 12.5	0.0
	外材	△ 16.7	16.7	16.7
在庫動向	国産材	△ 12.5	12.5	12.5
	外材	16.7	16.7	16.7

・国産材ラミナの入荷動向は2月、3月の減少から、4月は横ばいに。外材は2月の減少から3月、4月は増加に。

・国産材ラミナ在庫動向は2月の減少から3月、4月は増加に。外材は3月連続増加。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	31/2月	3月	4月
国産材	25.0	12.5	△ 12.5
欧州材	△ 16.7	16.7	16.7
その他	△ 50.0	0.0	0.0

・国産材ラミナの購入価格動向は保合。
・欧州材は為替の影響で弱含み。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・外材ラミナは順調に入荷がある。出荷やや減によりラミナ在庫やや増加。
・国産材ヒノキラミナの入荷状況は、12月集成材の生産好調によりラミナ在庫が大幅に減少、1月は購入ラミナを増やした。3月の売材ラミナ購入も2月と同じくらいにする。一方製品販売の市況は年度の端境期といことで、住宅の建て方が落ち着き、構造用木材製品の荷動きは停滞している。4月以降の購入量の増減は未定。米ヒバは、11月、12月の集成材生産が好調であったためラミナ在庫は急速に減少。1月は減った分入荷を増やした。一方製品販売は2月低調。従って2月から当面は米ヒバラミナの入荷は増やさず様子を見る。国産材ヒノキラミナの在庫状況は、当社においてはヒノキになる。2月は製品の販売は停滞したが、自社製材の方も操業時間を短くして調整。上手くバランス調整が出来て在庫は増加も減少もしていない。売材ラミナ、自社製材、製品の販売、この三つのバランスを取り現状の在庫水準を維持したい。米ヒバは、11月、12月の集成材生産が好調であったためラミナ在庫は急速に減少。1月は減った分入荷を増やしラミナ在庫は増えた。一方製品販売は1月、2月今度は低調となる。ただし生産は予定通り生産し、製品在庫は増えた。製品在庫は増えたが、原料を製品に仕上げたためラミナの在庫としてはあまり増えてはならず、ラミナ在庫の推移としては横ばい。

(ラミナ価格動向)

・EPAが始まったこともあり少々ラミナ単価下がる。
・ヒノキラミナの価格動向は、全体的な製品販売の市況が年明け以降鈍化している事もあり、当社に桧ラミナを供給してくれる協力製材工場も、ラミナ購入量を増加させる話をしていても価格については協力的。値段は上げたいだろうが、据え置き価格での供給が受けられている。欧州材は、今年に入ってから為替円高化しており、為替分多少ラミナが安く買える様になるかもしれない。ただし、世界的な木材需要は比較的旺盛で、欧州サプライヤーは対日向けラミナ製材以外にも仕事を選ぶことが出来るポジションのため、根本的な現地価格の大幅値下がりには期待できないのではないかと。米ヒバ原木は、米スギ原木の高騰により発生した代替需要によりアメリカ向けに米ヒバが買われ、米スギ価格に引張られるように米ヒバ原木価格も暴騰した。しかし、2018年夏ごろから米スギ価格が落ち着いて来てから、アメリカ向けの米ヒバの代替需要がなくなり、米ヒバ原木価格は若干下がった。来月2月からようやくその価格が少し下がった丸太で製材したラミナが入って来て、ラミナコストが少し下がる見込み。

31年2月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		31/2月	3月	4月
生産動向	国産材	0.0	25.0	12.5
	WW集成管柱	0.0	0.0	25.0
	RW集成平角	△ 16.7	0.0	0.0
	米マツ集成平角	0.0	25.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	0.0	0.0	12.5
	WW集成管柱	25.0	0.0	△ 25.0
	RW集成平角	△ 33.3	33.3	16.7
	米マツ集成平角	0.0	25.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—

・構造用集成材の生産動向は、国産材は3カ月連続増加。WW集成管柱は2月、3月の横ばいから4月は増加に。RW集成平角は3カ月連続横ばい推移。米マツ集成平角は2月の横ばいから3月は増加、4月は再び横ばいに。

・国産材の出荷動向は2月の増加から3月は横ばい4月は再び増加に。WW集成管柱は2月の増加から3月は横ばい、4月は減少に。RW集成平角とも2月は減少から3月、4月は増加に。米マツ集成平角は2月の横ばいから3月は増加、4月は再び横ばいに。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	31/2月	3月	4月
スギ集成管柱	△ 12.5	12.5	0.0
ヒノキ集成柱	△ 25.0	0.0	25.0
ヒノキ集成土台	0.0	25.0	0.0
カラマツ集成土台	12.5	25.0	12.5
WW集成管柱	0.0	0.0	25.0
RW集成平角	△ 33.3	△ 16.7	△ 16.7
米マツ集成平角	0.0	△ 25.0	△ 25.0
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	△ 25.0	0.0	25.0
カラマツ集成平角	—	—	—

- ・スギ集成管柱の価格動向は保合。
- ・ヒノキ集成柱、集成土台とも保合。
- ・カラマツ集成土台強含み。
- ・WW集成管柱強含み。
- ・RW集成平角弱保合。
- ・米マツ集成平角弱保合。
- ・米ヒバ土台角保合。

モニターからのコメント

(構造用集成材の荷動き)

- ・RW集成平角は生産調整により予定より生産量が少ない。出荷は受注下落により15%ダウン。
- ・ヒノキ構造用集成材の生産動向は、2月は販売が低調なため、一部残業体制で臨んでいた生産を完全定時操業に戻すなど時間調整をして生産量としては減少させた。販売は5月の大型連休頃まで停滞すると見ており、当面完全定時操業体制で現状の生産量の維持を図る。WW集成管柱は、一般的な同業他社の情報によれば、WW、RW集成材管柱は依然製品在庫自体が少なく相応の引き合いがあると思われるが、一方で製品販売の市況はあまり芳しくない状況なので、増産体制を敷くまでではないと思われる。RW集成平角は、一般的な同業他社の情報によれば、RW梁は製品在庫もあり、また製品販売の市況自体も停滞しているため、生産動向としては減産等の対応を強いられている可能性も有る。米マツ集成平角は、当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米松集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米松ラミナ原料のコストは米松の丸太価格の値上がりストップしたので、小康状態に落ち着いたのではないかと。米ヒバ集成土台は、2月は米ヒバ集成材の生産は1月とほぼ同水準で横ばい推移。販売状況は芳しくないが、これ以上生産は落とさず、とりあえず先を作るだけ作り製品で在庫を持つ方針。
- ・ヒノキ構造用集成材の出荷動向は、昨年中は非常に販売好調で、出荷増が続いた、しかし、年明け以降急速に需要は減少中。2月も販売は低調な為出荷は1月比若干減少した。3月、4月も2月と同程度の販売出荷で推移すると思われる。WW集成管柱は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、WW、RW集成材管柱は依然製品在庫自体が少なく相応の引き合いがあると思われるが、一方で製品販売の市況はあまり芳しくない状況なので、出荷増までには至っていないのではないかと。RW集成平角は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、RW梁は製品在庫もあり、また製品販売の市況自体も停滞しているため、出荷も減少した居るのではないかとと思われる。米マツ集成平角は、当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米松集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米松ラミナ原料のコストは米松の丸太価格の値上がりストップしたので、小康状態に落ち着いたのではないかと。米ヒバ集成土台は、2月は米ヒバ集成材の生産は1月とほぼ同水準で横ばい推移。販売状況は芳しくないが、これ以上生産は落とさず、とりあえず先を作るだけ作り製品で在庫を持つ方針。

(構造用集成材の出荷価格動向)

- ・不需用期及びEPAの影響により価格弱し。
- ・**スギ集成管柱の出荷価格動向**は、当社生産品目ではないが、2月以降は年度末に向けて杉集成材を採用している大手ビルダーの建て方の棟数が年度末の端境期といことで減少する。これに伴い、杉集成材の製品の販売も落ち着いたのではないかと。年度末の処理と来季の計画や予算が決まる4月、5月頃から一般需要も含め徐々に回復するだろうがそれまではこのままの落ち着いた引き合いが続くと思われる。従って価格も当面据え置きとなるのではないかと。 **ヒノキ集成柱および集成土台**は、原料価格は原木などジリジリと値上がりしたこともあり、製品価格も値上げしたい所だが、来年以降の需要減少に備えてあまり無茶は出来ない、価格は当面維持して、それよりも値上がり傾向の他樹種材料からのシェア奪取を図る。 **カラマツ集成土台**は、当社生産品目ではないが、同業他社の話によれば、価格云々よりも原木の確保が急速に困難になりつつあり、生産や出荷量も限定されてきているという話を聞く。 **WW集成管柱**は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、**WW、RW**集成材管柱は国内の完成品在庫が少なく、昨年中は引き合いも強かったため、価格は強含み傾向で推移した。一方年明け以降は製品販売市況が停滞してきた為価格は横ばいで推移しているものと思われる。 **RW集成平角**は、当社では生産していないが、一般同業他社の情報によれば、相場も6万円は切る状況まで下がった模様。更に年明け以降の製品販売市況の停滞、為替円高化、日欧EPUの適用による輸入完成品の関税撤廃による先安観など、値下がり誘発する条件がそろっており、弱含み基調は当面変わらないかと。 **米マツ集成平角**は、当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米松集成材は**WW**や**RW**と異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米松ラミナ原料のコストは米松の丸太価格の値上がりがストップしたので、製品への価格転嫁の話も今は落ち着いたのではないかと。 **米ヒバ集成土台**は、2017年大幅な値上げを敢行。現在の価格に到達したのが2018年1月。それから1年間時間が経った。目先の状況は製品販売思わしくなく、他の米材の現地価格も下がってきているため、値下げの要望も受けるが、価格は下げない製品販売が鈍っても現行の価格は維持する。